

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774002089		
法人名	株式会社 時代		
事業所名	グループホーム トキヨの鈴		
所在地	豊中市服部寿町2丁目1番12号		
自己評価作成日	平成22年3月15日	評価結果市町村受理日	平成22年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774002089&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常磐町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成22年4月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事故を少なくするため、毎月ユニット毎に事故防止のカンファレンスを行い、利用者に安全で快適な生活を過ごしていただけるよう取り組んでいる。
 ・利用者の希望で、定期的に外食(回転寿司)を行っている。
 ・利用者のADLに合わせて散歩や買い物など外出する機会を作っている。
 ・毎月、レクでボランティアを呼んだり、スタッフで催し物を行ったりして楽しんでいただき、1階と2階の利用者の交流の場にもなっている。
 ・地域の行事(運動会・夏祭り・敬老の集い等)に積極的に参加し、利用者が地域の一人として交流している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建アパートを改造した、2ユニットからなるホームである。居間の壁には利用者が色紙で作った壁画や絵など、季節感溢れる作品を飾って、明るく馴染める空間作りをしている。理念は、「寄り添う介護で、安全で快適な暮らしを提供します。地域に開かれたホームとして貢献します。」とし、利用者の心に寄り添う本人本位の介護計画に基づき、利用者は楽しみごとや家事の役割も担い、その人らしいペースで生活を営んでいる。健康管理も適切に行われている。介護計画の実施を確実にするため、介護記録の書式を工夫し改良している。運営推進会議や地域の行事参加、ボランティア受け入れ等で地域との交流も図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と話し合い、運営理念として、①寄り添う介護で安全で快適な暮らしを提供します。②地域に開かれたホームとして貢献します。とし、日々サービスの向上に取り組んでいる。	利用者への安全で快適な暮らしの提供と、地域に開かれたホームを目指すことを、理念の基本としている。日々の取り組みの中で、理念に立ち戻り、介護のあり方について話し合い、意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域行事(文化祭・夏祭り・敬老の集い・運動会等)に誘っていただき参加している。	運営推進会議を通じて、地域の行事や交流会などに誘われ参加している。近くの店や喫茶店とも馴染み深い関係ができています。また、事業所からも地域貢献の一環として、介護実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れは行っているが地域住民を対象とした勉強会等を開催するところまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では取り組んでいるサービス内容の報告を行い、質問や意見を受けている。外部評価の結果や課題についても報告して意見をもらうようにしている。	会議は2ヶ月に1回開催している。ホームの現況、行事、ヒヤリハット・事故報告、外部評価報告、消防訓練などを議題としている。出席者から意見も聞ける双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、最低一度は役所へ足を運び、問題点などあれば相談するようにしている。また、介護相談員に月一回訪問していただき、サービスの助言を得ている。	高齢介護課へは介護保険に関する相談で、生活福祉課へは生活保護に関する相談で頻繁に出向いている。また、介護相談員の意見・助言をサービス向上に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加し、伝達講習をして職員全員が、その内容と弊害について認識している。ただ、施設前が車通りの多い道路なので、安全のため施錠している。	玄関が車道に面しているため、危険防止のため、施錠している。鍵をかけることの弊害を職員は理解しており、外に出たい様子があれば職員が声をかけ、一緒に出かけることで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して高齢者虐待防止関連法を学び、会議等で職員に伝達して理解を深め、徹底防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフは権利擁護に関する研修に参加する機会をもち、その後、伝達講習と研修報告書にて職員の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間を取り詳しく説明している。利用者の状態により、グループホームでの生活が困難な場合は、家族等と対応方法を相談している。料金改定時は再契約を行い説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の会話や、月一回介護相談員に訪問していただき、意見や悩みを聞いていただいている。家族等にも訪問時に直接聞いたり、意見箱を設置したりして意見を反映している。	利用者や家族が意見、要望を表せる機会として、日々の会話、意見箱、苦情相談受付窓口、運営推進会議、介護相談員訪問などを設けている。家族の意見、要望は、会議で検討して、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議、個人面談などで意見や提案を聞くようにしている。また、会議・面談以外でも、意見や提案があれば、いつでも聞き話し合うようにしている。	管理者は職員会議や個人面談で、職員の意見や提案を聞いている。職員から出された勤務体制や設備の見直しの案件も、会議で採択され実行に移されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行っていて運営者も職員の努力や成果について把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て職員が順番に参加できるようにしている。それらの研修報告は、毎月の全体会議で発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や地域ネットワーク会議があり、積極的に参加し、交流する機会を通してサービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談があった時は、本人に見学に来ていただくか、訪問し、必ず会って本人の状態・不安など理解するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談時に、これまでの経緯や家族の苦労など、家族の立場になって話を聞き、受け止めるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、ご家族の思い、状況等を確認して改善に向けた支援の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が人生の先輩であるという考えを職員が共有し、できる範囲の家事を職員とともにしたり、得意なことなどは教えていただいたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や定期的に利用者の日々の暮らしの様子や職員の思いを伝え、情報の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院や行き着けの店に家族と毎月行き続けている利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないように、以前から通っていた絵手紙教室や、行きつけの美容院や店に通えるように、利用者一人ひとりを尊重し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員が把握し、みんなで楽しく過ごす時間の提供や、気の合う者同士で過ごせる時間の提供等、関係がうまくいくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方に、利用者と一緒に遊びに行ったり、誕生日会など来ていただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での声掛けで、言葉や表情から利用者の思いや希望・意向等の把握に努めている。また、月一回、介護相談員の方に来ていただき傾聴していただき参考にしている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向は、日々のかかわりの中で声をかけ、話を聞き、把握するように努めている。これらを「申し送りノート」に書きとめ、スタッフ間で、対応を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者などから入所前どんな生活をしてきたかを聴き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを日々の関わりの中で感じ取り、本人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。職員全員が参画して本人本位の介護計画を作成している。	計画作成担当者は、職員全員の参画のもとに、利用者・家族の希望を取り入れ、利用者本位の介護計画を立てている。毎月のケアカンファレンスで介護内容を検討し、介護計画の見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録用紙に食事、水分量、排泄等身体状況および日々の暮らしの様子を介護計画に沿って記録している。いつでも全職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の喫茶店をよく利用させていただいている。また、地域の方から、行事の誘いがあると参加し、ボランティアの方にも施設に来ていただき、利用者の楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の同意を得て、事業所の協力医療機関の医師がかかりつけ医となっているが、ご本人やご家族の希望に応じて他の医療機関への受診や通院への支援を行っている。	本人及び家族の希望を優先して、事業所の協力医のほか、入居前からのかかりつけ医や他の医療機関への受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師とは、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を24時間気軽に行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、医師と話しをする機会をもち、事業所内で対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう、努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、かかりつけ医と連携をとりながら24時間対応できるようにしている。急変した場合も全職員がマニュアルに沿って緊急対応が取れるようにしている。	ホームで終末期を過ごせるように準備を進めているが、重度化した場合や終末期のあり方について、本人及び家族の意向を確認する話し合いはまだ十分ではない。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人及び家族と話し合い、事業所でできる最大のケアを説明して本人及び家族の意向を確認し、内容を記録して共有化しておくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて、緊急時の対応についてのマニュアルの整備や医療機関の協力で救急手当や蘇生術の研修を実施して、全職員が対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災研修を毎年受け、消防署の指導による避難訓練や地域住民の協力を得て、事業所での避難訓練を行っている。	防災研修を受け、消防署の指導による避難訓練を年2回行っている。避難場所は地域の協力により設定しているが、地域の方々との合同の防災訓練はまだ実施していない。	運営推進会議等を通じて、地域の方々との災害時協力体制構築を進めることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報規程を定め玄関前に掲示している。利用者のプライバシーは、尊厳と権利を守るため、職員全員が声掛けなどに注意し、意見し合えるようにしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、利用者の誇りを傷つけないよう、職員全員が言葉遣いや態度に注意し、徹底を図っている。利用者の介護記録は慎重に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者と過ごす時間を通して利用者の希望や関心、嗜好を見極め、利用者に合わせて声かけや意思表示が困難な方にも本人が決める場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな事業所の業務のスケジュールはあるが、利用者個人の生活習慣や希望、本人のペースに合わせた生活が送れるよう配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めていただいている。また個々の生活習慣の継続性のため馴染みの理容院へ行ったり、訪問利用も本人の意思を重視して行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等は利用者と共に、職員と利用者が一緒にテーブルで楽しく食事ができるようにしている。また、定期的に外食もするようにしている。	食事は職員の手作り料理で、利用者も調理・配膳・片付けの一部を手伝っている。職員は食事介助もしながら、食事をともにし、和気藹々と楽しい食卓となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、その都度記録し、職員全員が把握できるようにしている。食事面では、可能な範囲で食べやすい形で、また希望されるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回の口腔ケアを本人の力に応じて行っている。介助が必要な方は、職員が手伝えるようにしている。また、週に一回、訪問歯科に来ていただき口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、排泄パターンに沿ってトイレ誘導している。失禁が少なくなった利用者には、下着に尿取りパットのみ使用し快適に過ごしていただけるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、排泄パターンに沿って時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員全員が利用者の排便習慣を把握し、水分を多く摂ってもらったり、牛乳などの対応をしている。便秘の時は、主治医に相談するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、できるだけ利用者の希望する時間や曜日にも入浴できるよう支援している。	各ユニットごとに週2回、入浴日を設定し、希望により最高4回まで、好きな時間に入浴できるよう支援している。足浴、清拭も臨機応変に行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や疲れ具合に合わせて、休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明を各入所者ごとにファイルしていて、職員が内容の把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力が発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、日常的に散歩や玄関前に出て花の水やりや植替えを一緒にして、季節を感じてもらっている。	雨の日以外は、散歩、買物等、出来るだけ外の空気に触れられるように配慮し、気分転換を図っている。玄関前で花の水やりや植替えを一緒にやり、季節を感じて貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は、家族よりお金を預り、事務所で管理しているが、希望がある方は、本人に一部管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、職員の見守りで電話や手紙が出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、様々な生活感や季節感を採り入れた壁画を考えて、利用者と一緒に制作して居心地よく過ごせるよう工夫している。	居間の壁には利用者が色紙で作った大きな桜の木の壁画や利用者が描いた筍の絵など、季節感溢れる作品を飾って、明るく馴染める空間作りをしている。ベンチや椅子が所々に置かれ、一人でも寛げる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースをつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や馴染みの生活用品が持ち込まれていて、利用者が居心地よく過ごせる場所となっている。	居室には、タンス、仏壇、テレビなどを持ち込み、家族写真、人形、ぬいぐるみ、装飾品等好みの品を飾って、その人らしく暮らせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの不安や混乱を避けるべく、トイレの表示を分かりやすくし、居室の扉は色を変え区別し、各部屋に花の名前と利用者の名前を見やすい位置で確認できるように工夫している。		